

## (3) [実践事例3]

## Unit 7 サンフランシスコの学校（NEW HORIZON 1）における授業改善の視点

学校教育における英語リーディング指導の課題の1つに、教科書本文の内容をどのように生徒に深く理解させ、本文内容をもとにどのように生徒の意見や考えを英語で表現させるかということが挙げられます。その課題を克服するために、読解指導において教師が発問を効果的に活用することが指導方策の1つと考えます。読解発問は、事実発問、推論発問、評価発問の3つのタイプに分けられます。

- ・ 事実発問・・・本文上に直接書かれた情報を読み取らせる発問。
- ・ 推論発問・・・本文上には直接示されていない内容を本文情報と読者の背景知識から推測させる発問。
- ・ 評価発問・・・本文情報に対する読み手の考えや態度を表明させる発問。

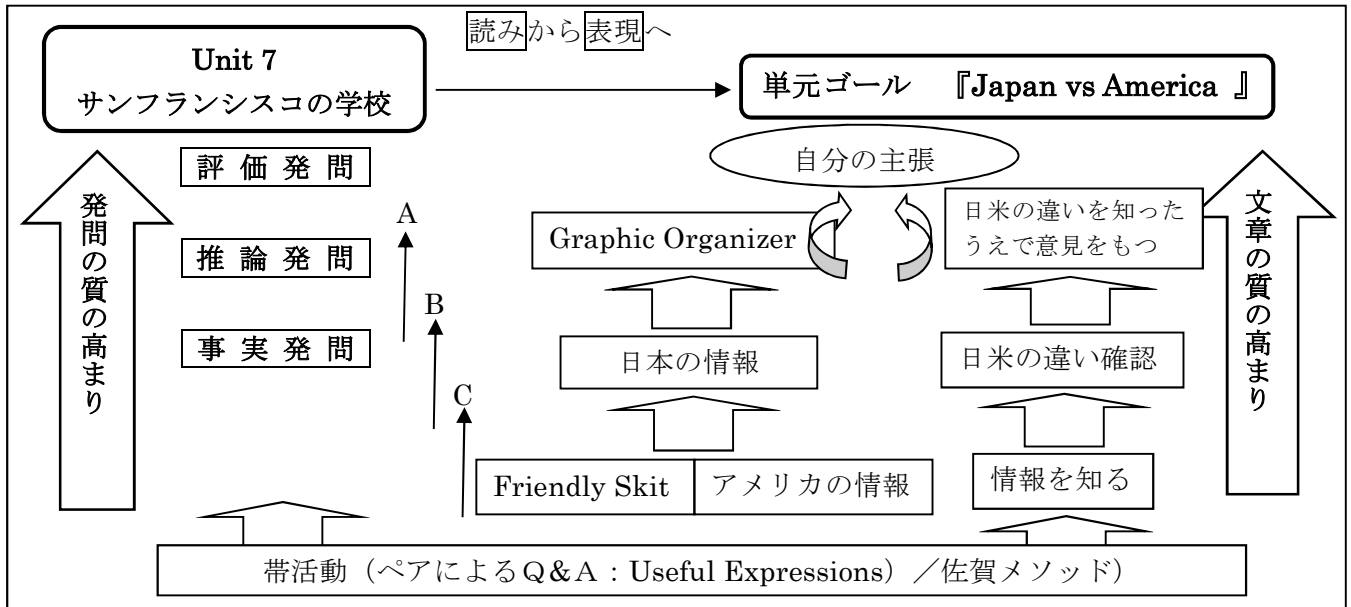
これらの発問の中でも、特に推論発問及び評価発問には、生徒から異なる解釈や考え方を引き出す特徴があることから、本文情報を読む生徒の動機を高める、生徒の読みを深く豊かにする、生徒同士の協働学習を促すなどといった、読解指導における様々な可能性があると考えられます。

## ① 発問を軸とした単元構成

Unit 7における発問を以下のように設定します。

Pre-reading	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Teacher Talk や写真などで興味をもたせ、本文の内容をつかみやすくさせる。</li> <li>・ 日本とアメリカの文化の違い（学校以外の場面、簡単なもの）を提示し、異文化理解に興味をもたせる。</li> <li>・ 生徒との <b>interaction</b> の中で、日本とアメリカの文化の違いに生徒が気付くような質問に答えさせる。</li> </ul>
While-reading	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 口頭で、本文に関する質問に答えさせる【事実発問】。</li> <li>・ 本文に明示されている情報を表に整理させる【事実発問】。</li> <li>・ 日本の学校生活について考えさせる【推論発問】。</li> </ul>
Post-reading	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本単元で学んだ日本とアメリカの文化の違いと、それぞれの良い点・悪い点をふまえて、“Which is your favorite, Japan or America?”という質問に対する自分の主張をさせる【評価発問】。</li> </ul>

## ② 発問と単元ゴールの相関関係



## ③ Unit 7での発問の高まり

While-readingの中の事実発問（アメリカの情報の整理）から推論発問（日本の情報、日米の違い）へと、それらをPost-readingの中の評価発問（2国間の文化の違いを見直し、どちらを好むかについて理由を含めて答える）まで高めていきます。

## ④ Unit 7と単元ゴール「主張大会“Japan vs America”」のつながり

ア 推論発問を通して、本文に出てくるアメリカの学校の情報を正確に理解し、ワークシートにまとめることで、異文化に対する知識を深めることが期待できます。

イ 推論発問を通して、日本の学校の様子や日米の文化の違いについて考えさせます。本文に直接示されていないことを推論させると同時に根拠も問うため、本文や資料集を何度も読み返させることができます。自分の考えとその根拠の述べ方の練習となります。

ウ 評価発問（Which is your favorite, Japan or America?）に対して、本文から読み取った内容や推論発問で導き出した答えに自分の体験を関連付けた上で、自分の考えとその理由を述べさせます。物事を多面的に捉える視点が身に付くことも期待できます。

## ⑤ 普段の授業を支えるものとして

これら③④のような活動を支えるものとして、普段の授業で取り入れている帯活動や佐賀メソッド、さらにペアによる教え合いがあります。帯活動では、Useful expressionsの練習を取り入れています。内容理解の読みの指導を行ったあとに音読を行います。また、本学級は、学び合いの充実を図るために、アンケートや実力試験の結果を基に2学期当初より恣意的な座席で授業を行っています。前後左右ともに英語が得意な生徒と苦手な生徒の組み合わせになっており、英語が苦手な生徒に教えることで考えや知識を整理したり、英語が得意な生徒に教えてもらうことで苦手を克服したりするねらいがあります。